

福祉の充実に貢献する者として

理事長 統括施設長 岡野光宏

お陰様で無事平成28年度も終了し、新年度を迎えました。これもひとえに保護者の皆様、後援会の皆様、利用者の方々、地域の皆様、各関係機関、応援してくださる方々のご支援のお蔭と感謝しております。

平成18年に理事長の任についてこの10年、児童施設に加え、短期入所、日中一時支援事業、グループホーム、障害者支援センター未来相談事業所と事業をすすめてまいりました。40名定員の児童施設から定員60名の障害者支援センター未来事業所、45名のグループホーム、短期入所利用者、日中一時支援利用者が共に約70名ずつ、相談事業関連では計画相談利用者が130名余とその他一般相談利用者等々と社会福祉法人筑峯学園の各事業所を利用してくださる方も増えております。一方、職員数も約8

0名となり、各事業所に管理者を置き、私が統括するという形をとっております。これらの社会福祉事業は障害児・者、家族の皆様、および地域にとつて必ず必要があるとの確信をもって進めてまいりました。今年度は念願であった就学前のお子さんの児童発達支援に取り組みでまいります。そしてこれからは児童施設の改築に向け具体的な準備をしていきます。

社会福祉法人の役割として利用者はもとより地域社会における福祉の充実に貢献することが大切です。私も目の前の必要性とあわせ、それなりの先駆性、独自性を持ってこれからも努力していきたくと思っています。

昨年は神奈川県相模原市の知的障害者施設で元職員が引き起こした痛ましい事件がありました。施設

運営の基本は利用していただける方の幸せ、支える家族の安心、職員の仕事への意欲、満足、向上でしょうか。その構築を怠ると歪みが生じることかと思えます。

今の時代は人間関係を遊びや学校生活、労働を通して高めていく力が弱く、お互いの人格と個性を尊重できるようにしていくことが難しいのかもしれない。私は幼少期に施設の中で障害を持つ人たちと生活を共にしておりました。食事や遊び、時には就寝まで面倒をみてもらったようです。お陰様としか言いようがありません。その生活環境の中で人間は皆、同じで且つ個々人は違うという事を学びました。それが、今の仕事の基本の姿勢となっております。人間は誰もいくつになっても共に、(親も子も職員も)育ちあい成長するものであると思っております。

保護者の皆様もわが子を育てる中で、障害というものに囚われるのではなくわが子を慈しみ、成長できるように関わってこられたと思います。心無い差別的な目にあつたこ

ともあるでしょう。成長に関して意見の違いを感じたこともあつたことでしょうか。ともすれば守る姿勢が過保護になり、わが子の可能性を狭めるようなことにつながつたこともあつたかと思えます。

当法人の各事業所が保護者の想いを大事にしながら、利用者の真の成長、幸せを願い、職員が福祉の仕事をしていきたいと思つた温かい気持ちをもち続け、楽しく創造性のある仕事ができるように一層の努力をする所存です。今年度も、保護者の皆様、後援会の皆様、地域の皆様、各関係機関の皆様のご支援を賜りたくお願い申し上げます。当法人に気軽にお越しく下さい。



春、新たな出会い・出発

児童施設 筑峯学園

施設長 岡野美智子

春の訪れとともに梅、桜を愛で、山の木々の緑が美しい今日この頃です。眼下には水の張った田もみられ、活気のある時期の到来といった感じですが。

つくほうだより

平成28年度もお陰様で無事終了し、平成29年度を迎えることが出来ました。児童施設は現在、入所者40名で、平成26年以降に入所した児童が約半分となっています。やっと、学園生活に慣れ、入所者同士、職員と関わりを持てるようになった児童もおります。保護者の皆様方におかれましても1年間を過ごし、園の生活を理解されつつある方もおられる事でしょう。お子様の様子に安心していただけたら幸いです。思っております。

29年3月に高等部を卒業した園生が学校からの現場実習を経て石岡市にある「しろがね苑」という

成人施設に入所しました。今後2年間の自活訓練生活を経て、就労移行、継続、就労とステップアップできるように支援を受ける事になります。担当職員が家族、学校と協力して、本人の心身の状態を把握して課題を与えながらのきめ細かい指導を行い、本人もその気持ちに添えての出発でした。素敵な未来を感じる別れでした。

3月、4月は別れと出会いがあり、職員も3名の退職がありました。それぞれ職員の歩んだ道は児童の心に残っています。3名への感謝と新しい出発をお祈りしております。4月からは児童施設の指導職員として4名が入職しました。彼らも必死な様子の毎日です。

人の心や体を理解するのは大変な事です。それと併せて学校を卒業し、自らが生活の主体者となり、園

では生活を支援する立場となるわけですから、大変なのは当たり前です。新人職員の真摯な態度をみて、先輩職員も襟を正し共に園生の為に良い養育ができるように頑張りたいと思います。

30名の通学児童は進級し、5名が中学部へ進み、2名が高等部へ入学しました。例年4月は子供たちが落ち着かない様子がみられました。今年度は学校生活も問題なくそれぞれの課題をめざしてがんばっているようです。10名の学卒者も日々、たくさんの洗濯ものの整理や農作業、清掃など良く作業をしています。働ける身体、集中できる力、道具を使う力を高め、協力しながらそれぞれの課題、進路に向けてがんばっています。作業だけではなく、近くの平沢官衙にて花見をしました。調理の方の協力を得て、自分たちで焼き肉弁当をつくって行きました。要求を取り入れながら、いろいろな体験して自主性、協調性、社会性等を伸ばしていかれたら思っています。

今年度は児童発達支援を始める

予定です。就学前のお子さんが、手足を使い、充分遊び、人と関わり、発達を保障できるような取り組みをしていきたいと思っております。人間は人と人の交流において発達できるものです。ゲーム機やテレビなど機械音等にさらすのではなく、心の通い合う養育を目指していきたいと思えます。また、地域で生活している方の支援として短期入所、日中一時支援事業も継続してまいります。

児童期は人づくりの基の様な時期です。自分の想いを伝え、人の話も聞き入れ、共に協力して生活し、自己を肯定できるような人になれるよう、いっぱい話し、いっぱい遊び、前向きな生活を目指して職員一同取り組んでいきたいと思っております。



利用者さんの人生のサポーターとして

相談していただけることを大切に...

障害者支援センター未来

センター長 松島寿樹

相談支援事業所 筑峯学園

所長 武田真浩

すっかり春らしい気候になり、屋外での活動もしやすくなってきました。障害者支援センター未来の活動場所周辺の木々も芽吹き、タラの芽やワラビ、ゼンマイなど山菜類の収穫を楽しみながら、利用者、職員共々やる気に満ち溢れています。

います。日々の活動のほかにも、夏季旅行、収穫祭、冬季スキー旅行等を始めとした行事を通して、利用者一人ひとりと喜怒哀楽に共感しながら、時には叱咤激励し、一歩一歩人生を歩んでいくサポートしていきたいと思えます。

今年度、障害者支援センター未来では新たに特別支援学校を卒業した2名の利用者さんを迎えました。新たに通い始めた利用者さんも、毎日の活動を通して少しずつ未来での生活に慣れ、他の利用者と共に毎日元気に活動しています。

保護者の皆様、関係者の皆様には今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

今年度も未来では地域の田んぼでつくほう米作り、畑で野菜作り、また耕作放棄地の再生や山林の開拓整備、果樹やハーブの栽培、お茶づくり、木工作業、和紙の制作などを中心として、また新たに環境を生かした活動も模索しながら、利用者の心身の状態に合わせて活動して



新年度となり、皆さんの生活においても少なからず変化があったことと思われませんが、いかがお過ごしでしょうか？

当園の相談支援事業は平成20年4月から実施しておりますが、本格的には平成24年度からの開始となっております、今年度で6年目を迎えます。

職員体制としては、これまでと同様に岡野真唯職員と武田職員の2名による対応が主となりますが、法人内の他事業所の職員の皆さんにも助けられたり、協力してもらったりしながら行なっております。

おかげさまで相談支援を利用して下さる方は年々増えており、ありがたいかぎりですが、その反面一人ひとりの利用者さんへの対応を考えると、至らないところやご迷惑をおかけしてしまっているところもあると感じており、申し訳なく

思っております。もっとこうしてほしい等のご意見やご要望等がございましたら、遠慮なくお伝えいただけますと思います。

相談といっても内容は多岐に渡り、日々その場の対応に追われることが多くなっているのが正直なところではありますが、相談していただけることを大切にして、一つひとつのことを丁寧に対応していきたいと考えております。

人によって困っていることや困り感は異なります。まずはよく話を聞いて、相手の立場になって一緒に考えられる相談を行ない、「筑峯学園の相談支援は一緒に考えてくれる頼りになる相談だよ」と一人でも多くの方に思っていたらいいと思います。今後ともよろしくお願ひいたします。お気軽に相談支援を活用して下さい。

安全・安心のグループホームをめざして

グループホームほっとハウス

施設長 松山金寿

つくほうだより

若葉の緑が目にしみる季節となつてまいりましたが、皆様は、いかがお過ごしでしょうか。ほっとハウス平沢から見える山々の木々も青々と色づいて、遅咲きの山桜が、所々彩りを添えております。筑峯学園近くの、宝篋山や筑波山へハイキングに訪れる方々も見受けられます。皆様もこちらにお越しの際には、ハイキングなど、楽しんでみてはいかがでしょうか。

だから、それぞれが思い思いに楽しんで暮事が出来たと思います。今後も、小集団での活動を継続して取り組んでいき、利用者様に合った趣味嗜好を取り入れながら、余暇の充実を図っていきたいと思います。今後の活動予定ですが、5月にはバーベキューや、ゆうあいピックへの参加等予定しております。

利用者様の健康面でも、幸い、インフルエンザや、ウイルス性胃腸炎等の感染症の集団発生はありませんでした。これからの季節、食中毒が発生しやすくなってきましたので、引き続き感染予防に努め、利用者様の健康管理に配慮していききたいと思っております。

また、平沢では、消防署職員の指導の下、GH単独で初の総合防災訓練を実施しました。その他に通報訓練、消火訓練なども実施しています。GHの性質上各棟に建物が分かれ

ているため、各棟の利用者様を効率よく避難させる事を目標に行いました。反復訓練が必要なので、今後も継続して訓練を続けていき、有事の際には利用者様の安全を守れるように努めていきたいと思えます。今年度でほっとハウス全棟開所から2年が経過しました。まだまだ発展途上の部分もありますが、職員一同、利用者様が安心して生活できる場を提供し維持出来るよう、より良い生活支援を目指してまいりますので、引き続き皆様方の温かいご支援を頂ければ幸いです。